

シェアハウス

国際交流型に架ける夢

▶上

ボーダレスハウス代表取締役 李成一

若者たちを中心に新しい住まいの形として近年普及してきたシェアハウス。昨年発覚した「かぼちゃの馬車問題」により不動産投資という側面では逆風のように見られがちな業界ではあるが、実際に入居希望者側のニーズは高く、社会的必要性も増す一方である。

そんな中で、外国人と日本人が一つ屋根の下で生活をするという「国際交流」をコンセプトにしたシェアハウスが、当社ボーダレスハウスである。ボーダレスグループは08年

にシェアハウスを運営開始後、今では日本国内のみならず韓国ソウル、台湾台北にも進出し、延べ120棟を運営するまでになった。

様々な事業者がシェアハウスを運営する中、(+)では当社の取り組みを紹介しながら、「国際交流」をテーマにしたシェアハウスの現状、価値、そして今後の展望について3回にわたり紹介する。

また、外国人が抱える問題などもあって、外国人が日本で部屋を借りることは容易ではなかった。その問題への解決策として当社

が物件をサブリースし複数の外国人の方に住んでいただくという運営形式を始めた。

が物件をサブリースし複数の外国人の方に住んでいただくことが大きな。英語

を学びたい日本の若者は、日常生活の中で英語を実践的に使う機会を得ることができる。まさに「国

住まいと異文化に触れる

発足の経緯と意義

スを運営する中、(+)では当社の取り組みを紹介しながら、「国際交流」をテーマにしたシェアハウスの現状、価値、そして今後の展望について3回にわたり紹介する。

一方、外国人留学生も日本人のハウスメイトから、生きる日本語を学びながら生活することができる。

一方、外国人留学生も日本人のハウスメイトから、生きる日本語を学びながら生活することができる。



4月機械系商社(株)ミスミに入社。11年(株)ボーダレス・ジャパンに入社。17年同社シェアハウス部門を分社独立しボーダレスハウス(株)の代表に就任し今に至る。

その後も当社は、主に日本に留学している外国人と、外国人に関心のある日本人に「保証人や高い初期費用なく入居でき、国際交流ができる住環境」を提供している。

一方、外国人留学生も日本人のハウスメイトから、生きる日本語を学びながら生活することができる。

一方、外国人留学生も日本人のハウスメイトから、生きる日本語を学びながら生活することができる。



入居後3カ月で外国語が驚くほど上達する人も